

伊賀忍者：伊賀流忍者博物館の家の紹介

1964 年に開館した伊賀流忍者博物館では、伊賀地方の忍者の歴史と、忍術と実演（総称して「伊賀流」）を幅広くを訪問者に紹介している。

伊賀の忍者は、裕福な政治家、武士、地主に雇われた地元の地侍であった。農民として暮らしていたが、間諜や破壊工作者として訓練された忍者が収集した情報は、雇用主が敵対者と交渉する際に大きな優位性もつことができた。伊賀忍者は、その能力と技術の評判が高まるにつれて、日本全国の指導者たちに雇われた。徳川幕府の創設者であった徳川家康（1543～1616）は、かつて江戸城を守り、敵対する藩を監視するのに忍者を雇ったことは有名である。しかし、これらの伊賀戦士の全盛期は数百年しか続かなかった。18 世紀の終わりには、伊賀忍者の能力や技はもはや必要ではなくなり、忍者はほとんど姿を消してしまった。

忍者博物館では、忍びの道具として使用するために改造された農具から秘密の暗記術にいたるまで様々な物を展示している。レプリカの衣装、変装、道具は歴史的な戦士を蘇らせる。訪問者は、隠された通路や回転扉を備えた忍者の家を探検することもできる。博物館では、忍者ショーが行われ、本物の忍器をもった格闘が毎日実演されている。